

■ 開設年度		■ 開講部局	
2011		共通教育	
■ 科目名			
陽明学入門			
■ 英語科目名			
An Introduction to the Teachings of Wang Yang-ming			
■ 前後期		■ 開講区分	
前期		毎週	
■ 単位数		■ 大分類（科目）	
2		教養科目	
■ 科目形態			
講義			
■ 中分類（分野）		■ 分野1	
		分野1	
■ 受講学部学科			
全			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3756		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
【オフィスアワー】毎週水曜日午後【メール】 【授業後】			
■ 共同担当教員			
■ キーワード1		■ キーワード2	
視野・判断力・探求能力		社会的貢献意識	
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
『伝習録』に見られる王陽明の言葉により忠実にあたり、陽明学の本質を掴む。儒学の歴史について概観した後、宋の朱熹と陸象山にみる「心」に対する考え方の違いを確認し、王陽明の思想をみて行く。 今日、「陽明学」と呼ばれる新儒学の思想体系は王陽明の思想を指すが、一番肝心なのは、王陽明が人間の「心」というものをどう捉えていたかである。陽明学はしばしば、「革命の哲学」や「反逆の哲学」、「行動の哲学」という解釈がなされるが、それは正しくない。陽明学は社会思想でもなければ、革命哲学、行動の哲学でもない。ましてや支配者の論理（帝王学）でもなければ、逆に労働者解放の論理でもない。 しかし、陽明学が、社会思想、革命哲学、行動の哲学と（日本で）誤解されてきた事にもそれ相応の理由があり、心の学（心学）でありながらも、社会や政治に直接的影響を与えて来た事も確かな事である。そして、その影響の与え方は多岐に渡り、誤解・浅解のどれもがそれなりの理由に基づく。 本講義ではその理由は何であるかを真剣に考えたい。そして、世間に蔓延る「俗流陽明学」と一線を画し、王陽明『伝習録』から直接、陽明学の真髄を共に学びたい。 本講義は上限を20人に設定する。			
■ 学習目標			
儒学やその一つの流れの思想である陽明学について、基本概念を学ぶ。陽明学思想のもつ本質的な性格上、教養・知識として「陽明学」を知ることがさほど意味がないので、常に主体的に自らの「良知」に従って、物事を判断する姿勢を養う。また、世間に蔓延る「俗流陽明学」と王陽明自身の説いた所の違いを明確に理解する事が学習目標である。			
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
第1回：はじめに - 陽明学とは何か？—講義の狙い—			
第2回：儒学の歴史			
第3回：朱熹と陸象山—心即理と性即理—			
第4回：王陽明の人生・人となり			
第5回：格物(カフツ)			
第6回：良知(リョウチ)			
第7回：良知 - 2			
第8回：心即理(シンソクリ)			
第9回：天理・人欲(テンリ・ジンヨク)			
第10回：知行合一(チカウゴウイツ)			
第11回：事上磨練(ジジョウマルン)			
第12回：万物一体の仁(バンブツイツタイジン)・拔本塞源論(ハッポソウゲンロン)			

第13回：王陽明亡き後の「陽明学」—王龍溪・王心齋・李卓吾—

第14回：日本の陽明学1（中江藤樹）

第15回：日本の陽明学2（安岡正篤）

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
基礎知識は一切不要であるが、休みなく出席し真剣に受講する意志を有する者。	3分の2以上の、出席を前提として (1) 毎回のフィードバックシート（50%） (2) 期末レポート（50%）を総合的に評価。 期末レポートの提出要件は3分の2の出席とする。
■ 教科書	■ 参考書
受講者には最初にテキストを配布する。 『陽明学入門』（吉田健一・鹿児島学術文化出版・非売品）	『伝習録』王陽明・溝口雄二訳・中公クラシックス・2005年、『伝習録—「陽明学の真髄」—』吉田公平・タチバナ教養文庫・平成7年、『朱子学と陽明学』島田虔次 岩波新書 1967年、『林良斎—シリーズ陽明学27—』松崎賜・明德出版社・平成11年、『山田方谷—シリーズ陽明学28—』山田琢・明德出版社・平成13年、『東澤渦—シリーズ陽明学35—』野口善敬・明德出版社・平成6年、『池田草庵—シリーズ陽明学30—』望月高明・明德出版社・平成13年 他
■ その他	